

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成27年1月～3月期

目 次

| | |
|---------------------------------|----|
| 1. 県下産業全体の景況 | 2 |
| (1) 主要景況項目のあらまし | 2 |
| (2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし | 3 |
| (3) 今後の見通しについて | 4 |
| 2. 県下産業別の景況 | 5 |
| (1) 製造業の動向 | 5 |
| (2) 建設業の動向 | 8 |
| (3) 小売業の動向 | 11 |
| (4) サービス業の動向 | 14 |

平成27年4月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 27 年 1 月～3 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、みやぎ仙台、利府松島、加美、
遠田、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑
- (2) 対象企業数 1 5 0 企業
- (3) 回答企業数 1 4 7 企業

2. 調査対象期間

平成 27 年 1 月～3 月期を対象として、調査時点は平成 27 年 3 月 1 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

| 業 種 | 企 業 数 |
|-------|-------|
| 製 造 業 | 3 1 |
| 建 設 業 | 2 5 |
| 小 売 業 | 4 3 |
| サービス業 | 4 8 |
| 合 計 | 1 4 7 |

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成 27 年 1 月～3 月期)の調査において、産業全体の業況D I (前年同期との比較D I、以下同じ)は、前期より $\Delta 6.2$ と悪化し $\Delta 38.4$ (前期 $\Delta 32.2$)となった。産業別にみると、製造業は $\Delta 29.0$ (前期 $\Delta 6.3$)と $\Delta 22.7$ ポイント悪化、建設業が $\Delta 8.0$ (前期 $\Delta 4.0$)と $\Delta 4.0$ ポイントの悪化、小売業では $\Delta 54.7$ (前期 $\Delta 53.6$)と $\Delta 1.1$ ポイント悪化、サービス業では $\Delta 45.8$ (前期 $\Delta 45.8$)と横ばいであった。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事額)D Iでは、全体としては前期(H26年10月～12月期)から今期は若干の悪化傾向になっている。産業別にみると、製造業は $\Delta 22.5$ (前期 $\Delta 15.7$)で $\Delta 6.8$ ポイント悪化、建設業は 8.0 (前期 12.0)で $\Delta 4.0$ ポイント悪化、小売業で $\Delta 48.8$ (前期 $\Delta 59.6$)と 10.8 ポイント改善、サービス業では $\Delta 45.7$ (前期 $\Delta 36.7$)と $\Delta 9.0$ ポイント悪化であった。

② 採算の状況

採算D Iについては、全体として今期は前期に比べて若干改善した。産業別にみると製造業で $\Delta 32.3$ (前期 $\Delta 34.4$)と 2.1 ポイント改善、建設業は $\Delta 16.0$ (前期 $\Delta 12.0$)で $\Delta 4.0$ 悪化、小売業は $\Delta 51.1$ (前期 $\Delta 61.9$)で 10.8 ポイント改善、サービス業では $\Delta 54.1$ (前期 $\Delta 52.1$)と $\Delta 2.0$ ポイント悪化した。

③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、製造業では 12.9% で前期比 $\Delta 9.0$ ポイント減少、建設業では 20.0% で前期比 $\Delta 4.0$ ポイント減少、小売業では 4.7% と前期比 $\Delta 2.4$ ポイント減少、サービス業でも 10.4% で前期比 $\Delta 1.8$ ポイント減少した。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

H27年3月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断指数（D I）は製造業が3ポイント悪化のプラス1、非製造業は2ポイント改善のプラス3だった。先行きはいずれも悪化を見込む」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、建設業がプラスに止まる一方、製造業、小売業、サービス業はマイナス値にとどまった。前期との比較では小売業では改善したが、製造業、建設業、サービス業では悪化となった。

今期の宮城の全国、東北との売上額D I比較では、建設業では全国、東北を上回る一方、製造業、小売業では全国以下東北並み、サービス業では全国、東北を下回った。

表－1 売上額（完成工事額）の状況 (前年同期比・D I)

| 区分 業種 | 全 国 | | 東 北 | | 宮 城 | |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 前 期 | 今 期 | 前 期 | 今 期 | 前 期 | 今 期 |
| 製 造 業 | △ 9.6 | △ 14.0 | △ 15.7 | △ 23.4 | △ 15.7 | △ 22.5 |
| 建 設 業 | △ 9.8 | △ 17.1 | △ 6.4 | △ 21.8 | 12.0 | 8.0 |
| 小 売 業 | △ 40.7 | △ 42.8 | △ 44.5 | △ 48.5 | △ 59.6 | △ 48.8 |
| サービ業 | △ 26.3 | △ 25.2 | △ 29.9 | △ 31.1 | △ 36.7 | △ 45.7 |

② 採 算

宮城の今期の採算D Iは、全業種でマイナス値であるが、前期との比較では製造業、小売業で改善、建設業、サービス業で悪化した。今期D Iの比較で、宮城は建設業では全国と東北を上回る一方、製造業では全国以下東北以上で、小売業、サービス業では全国と東北を共に下回った。

表－2 採算の状況 (前年同期比・D I)

| 区分 業種 | 全 国 | | 東 北 | | 宮 城 | |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 前 期 | 今 期 | 前 期 | 今 期 | 前 期 | 今 期 |
| 製 造 業 | △ 21.1 | △ 24.9 | △ 25.6 | △ 39.9 | △ 34.4 | △ 32.3 |
| 建 設 業 | △ 20.9 | △ 20.9 | △ 12.8 | △ 22.3 | △ 12.0 | △ 16.0 |
| 小 売 業 | △ 43.0 | △ 42.2 | △ 47.0 | △ 40.4 | △ 61.9 | △ 51.1 |
| サービ業 | △ 32.9 | △ 32.7 | △ 39.2 | △ 40.0 | △ 52.1 | △ 54.1 |

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（27年4月～6月期）では、今期状況D Iとの比較で製造業で19.3ポイントの改善、小売業で6.9ポイントの改善、サービス業では20.7ポイントの改善見通しの一方、建設業で△37.1ポイント悪化見通しとなった。採算来期見通しD Iでも、今期状況D Iとの比較で製造業で9.0ポイントの改善、小売業で7.0ポイントの改善、サービス業では7.4ポイントの改善見通しの一方、建設業で△9.0ポイント悪化見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業、小売業、サービス業では全国及び宮城で売上額、採算共に改善見通しであった。建設業では全国で売上額、採算共に若干の悪化で、宮城では売上が大幅の悪化予想、採算が悪化予想であった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況と見通し (前年同期比・D I)

| 区分 業種 | 全 国 | | 宮 城 | |
|----------|--------|--------|--------|--------|
| | 今期状況 | 来期見通し | 今期状況 | 来期見通し |
| 製造業 | △ 14.0 | △ 9.6 | △ 22.5 | △ 3.2 |
| 建設業 | △ 17.1 | △ 19.0 | 8.0 | △ 29.1 |
| 小売業 | △ 42.8 | △ 38.8 | △ 48.8 | △ 41.9 |
| サービス業 | △ 25.2 | △ 23.1 | △ 45.7 | △ 25.0 |

表－4 採算の状況と見通し (前年同期比・D I)

| 区分 業種 | 全 国 | | 宮 城 | |
|----------|--------|--------|--------|--------|
| | 今期状況 | 来期見通し | 今期状況 | 来期見通し |
| 製造業 | △ 24.9 | △ 19.2 | △ 32.3 | △ 23.3 |
| 建設業 | △ 20.9 | △ 21.7 | △ 16.0 | △ 25.0 |
| 小売業 | △ 42.2 | △ 39.2 | △ 51.1 | △ 44.1 |
| サービス業 | △ 32.7 | △ 28.9 | △ 54.1 | △ 46.7 |

2. 県下産業別の景況

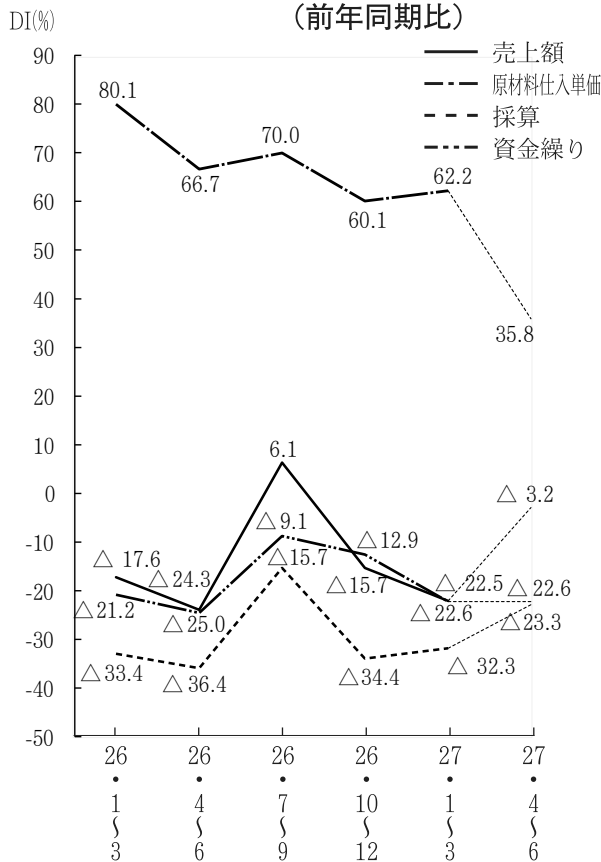
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△22.5（前期△15.7）となり△6.8ポイント悪化し、採算D Iは今期△32.3（前期△34.4）で2.1ポイントの改善、資金繰りD Iは今期△22.6（前期△12.9）で△9.7ポイント悪化した。

原材料仕入単価は今期前期 62.2（60.1）と2.1ポイントと若干上昇したが、来期も改善の見通しであり原材料の高騰状況は相対的には緩和の方向にある。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



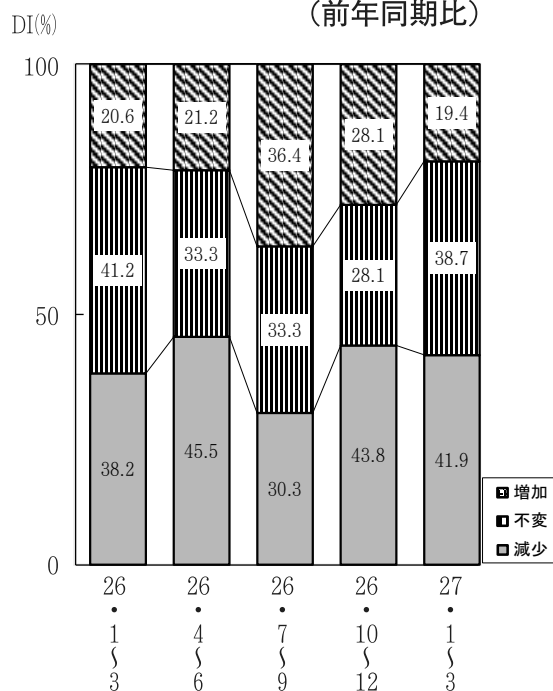
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「増加」と回答した企業は、全体の19.4%（前期28.1%）と△8.7ポイント減少し、「減少」と回答した企業も41.9%（前43.8%）と△1.9ポイント減少した。

結果として売上（加工）額D Iは△22.5（前期△15.7）となり前期比△6.8ポイント悪化した。

図1-2 売上(加工)額の状況
(前年同期比)

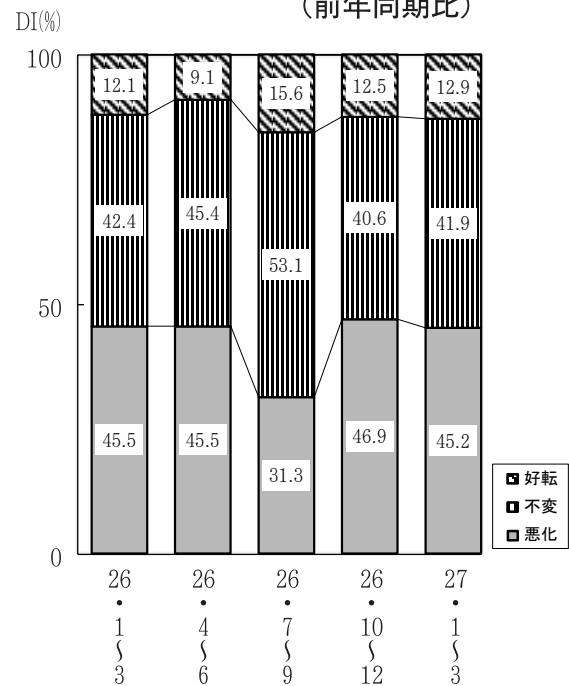


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 12.9% (前期 12.5%) で 0.4 ポイント増加し、「悪化」と回答した企業は 45.2% (前期 46.9%) で Δ 1.7 ポイント減少した。

その結果、採算 D I は Δ 32.3 (前期 Δ 34.4) で 2.1 ポイント改善した。

図 1 - 3 採算の状況
(前年同期比)



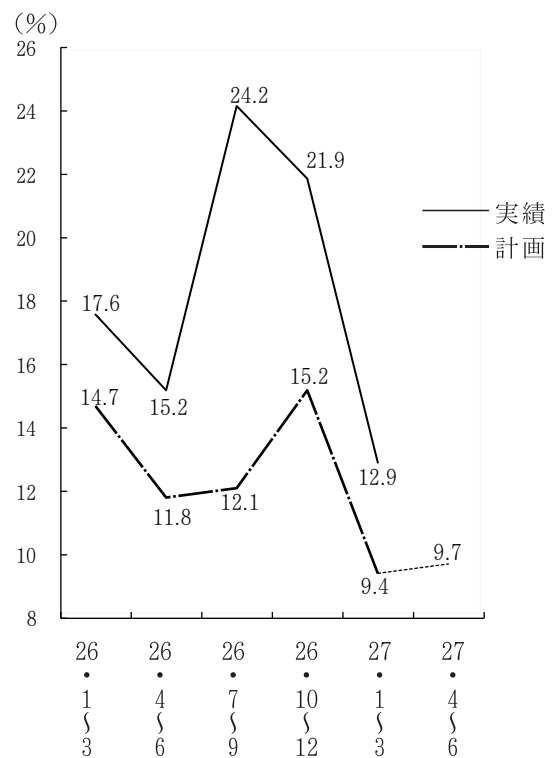
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、全体の 12.9% (前期 21.9%) で Δ 9.0 ポイント減少した。

その設備内容は、生産設備、付帯施設、O A 機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の 9.7% で、その設備内容は生産設備、車両・運搬具となっている。

図 1 - 4 設備投資の状況

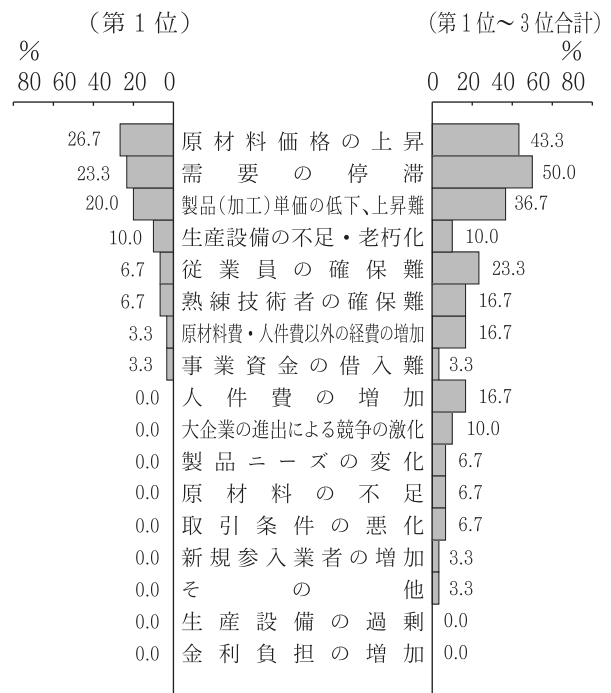


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「原材料価格の上昇」の26.7%で、次いで「需要の停滞」が23.3%、「製品（加工）単価の低下、上昇難」が20.0%と続いた。

重要度第1位から第3位合計では、最上位が「需要の停滞」で50.0%（複数回答計、以下同じ）、次いで「原材料価格の上昇」が43.3%、「製品（加工）単価の低下、上昇難」が36.7%と続いた。

図1-5 経営上の問題点



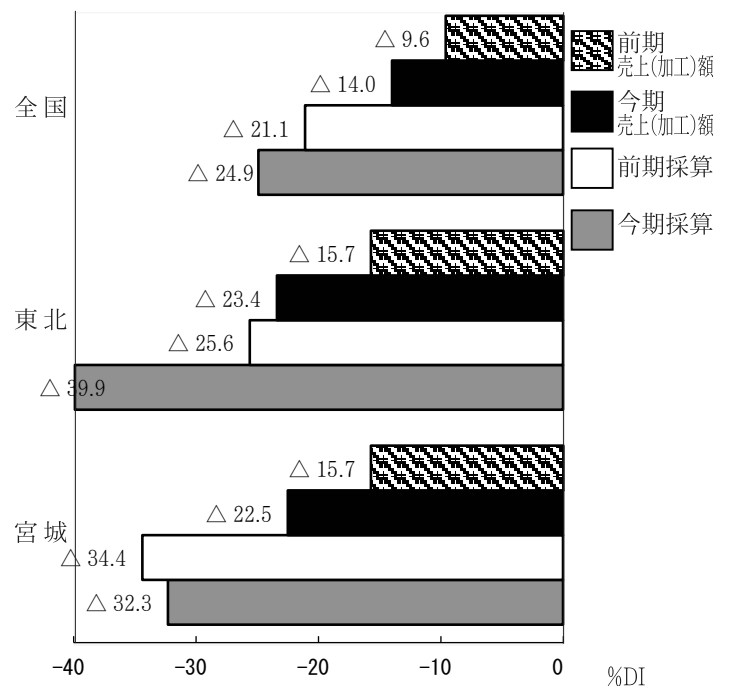
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では売上（加工）額D Iは、全国、東北、宮城で悪化した。悪化度は東北、宮城、全国の順であった。

採算D Iは、全国で若干の悪化、東北で悪化、宮城で若干の改善となった。

本県回答事業者からは「昨年と比べると3か月程度先の予定が出されるようになり、人員の確保と資材の発注が計画的に進められるため資金管理がわかりやすくなった」（電子機器組立業）、「新たな設備投資が見込まれない中で、積極的な営業展開を図っていく」（金属加工業）などのコメントがあった。

図1-6 全国東北宮城売上（加工）額・採算比較（前年同期比）



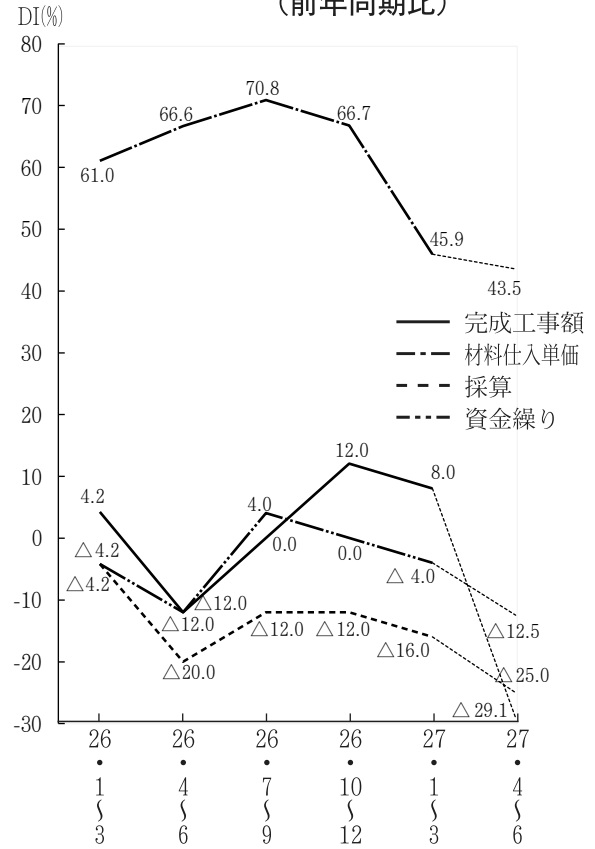
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期 8.0（前期 12.0）と△4.0ポイント悪化し、採算D Iも今期△16.0（前期△12.0）で△4.0ポイント悪化、資金繰りD Iも今期△4.0（前期 0.0）と△4.0ポイント悪化した。

材料仕入単価D Iは今期 45.9（前期 66.7）と△20.8ポイント低下した。

図 2 - 1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



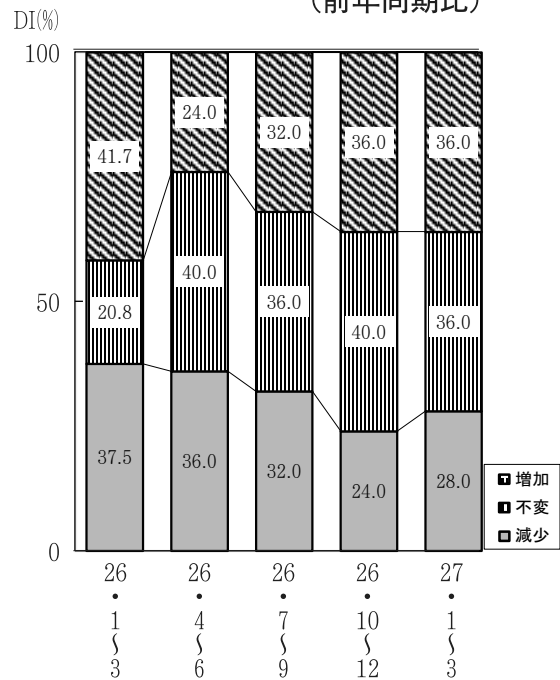
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の 36.0%（前期 36.0%）で横ばい、「減少」と回答した企業は 28.0%（前期 24.0%）と 4.0ポイント増加した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは 8.0（前期 12.0）と△4.0ポイント悪化した。

図 2 - 2 完成工事額の状況
(前年同期比)

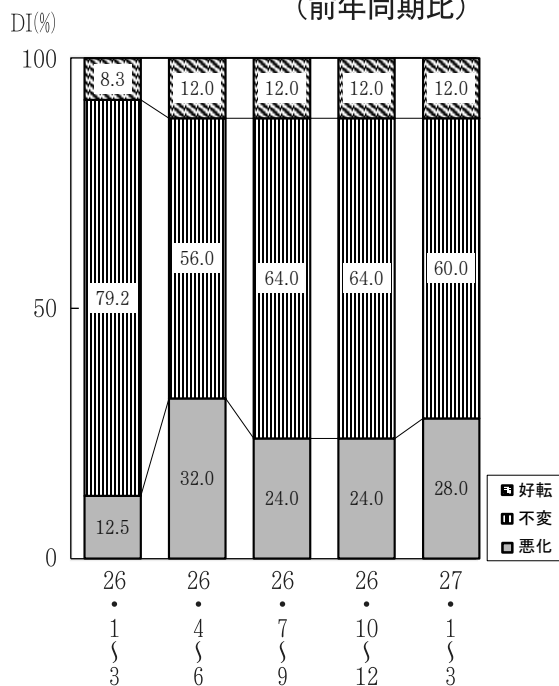


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 12.0% (前期 12.0%) で横ばい、「悪化」と回答した企業は全体の 28.0%(前期 24.0%) で 4.0 ポイント増加した。

その結果、採算 D I は△16.0 (前期△ 12.0) で 4.0 ポイント悪化した。

図 2 - 3 採算の状況 (前年同期比)



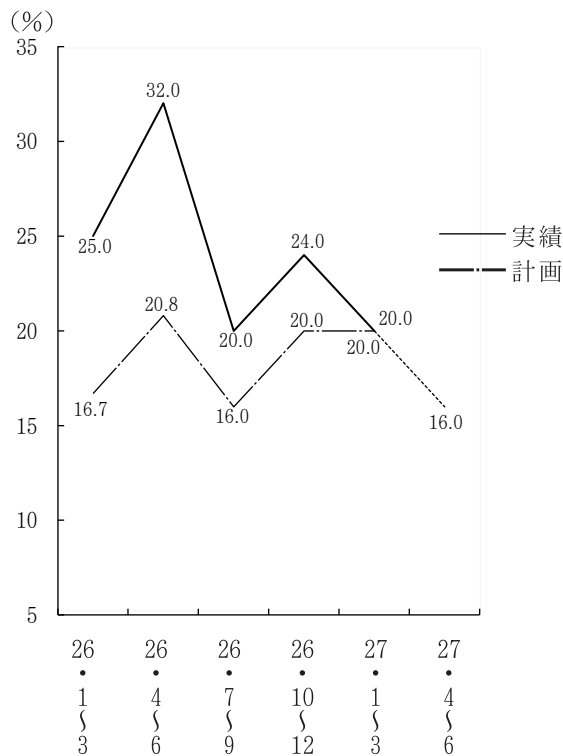
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施 (実績) 企業割合は、全体の 20.0% (前期 24.0%) で△4.0 ポイント減少した。

その設備内容は建物、建設機械、車両・運搬具、付帯施設、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の 16.0%で、その設備内容は建物、建設機械、車両・運搬具、OA機器、福利厚生施設となっている。

図 2 - 4 設備投資の状況

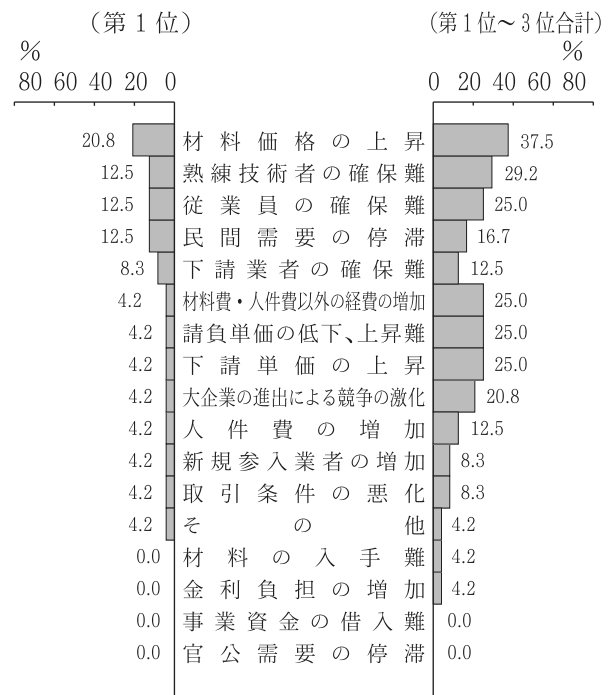


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は「材料価格の上昇」(20.8%)で、次いで「熟練技術者の確保難」、
「従業員の確保難」、「民間需要の停滞」が同率12.5%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「材料価格の上昇」が37.5%(複数回答計、以下同じ)で最上位、次いで「熟練技術者の確保難」が29.2%、「従業員の確保難」、「材料費・人件費以外の経費の増加」、「請負単価の低下、上昇難」、「下請単価の上昇」が同率25.0%で続いた。

図2-5 経営上の問題点

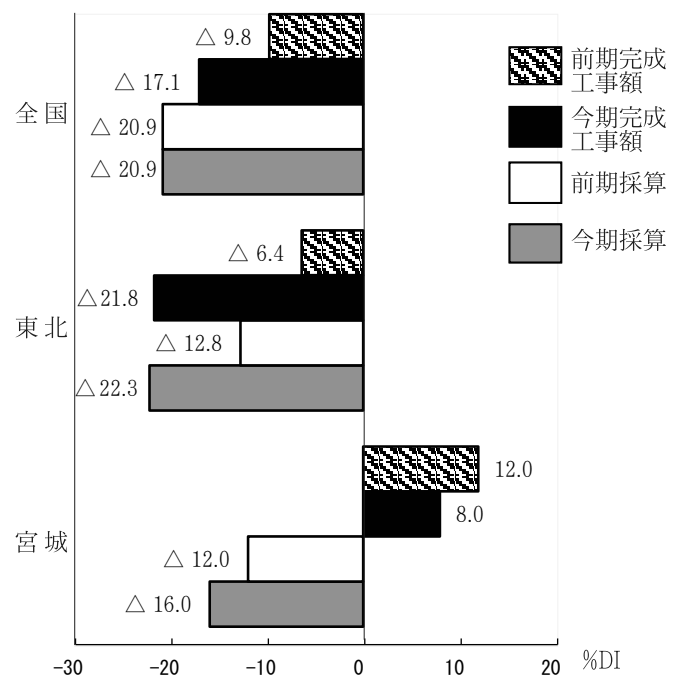


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では売上額DIは、全国、東北、宮城で悪化した。悪化度は東北、全国、宮城の順であった。採算DIは全国で横ばい、東北で悪化、宮城でやや悪化であった。

本県回答事業所からは「当分の間安定的に推移する見込みである」(内装業)とのコメントの一方、「請負単価の低下及び円安による材料価格の上昇で業績が悪化の方向にある」(石材業)と先行き不安のコメントも寄せられた。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較(前年同期比)



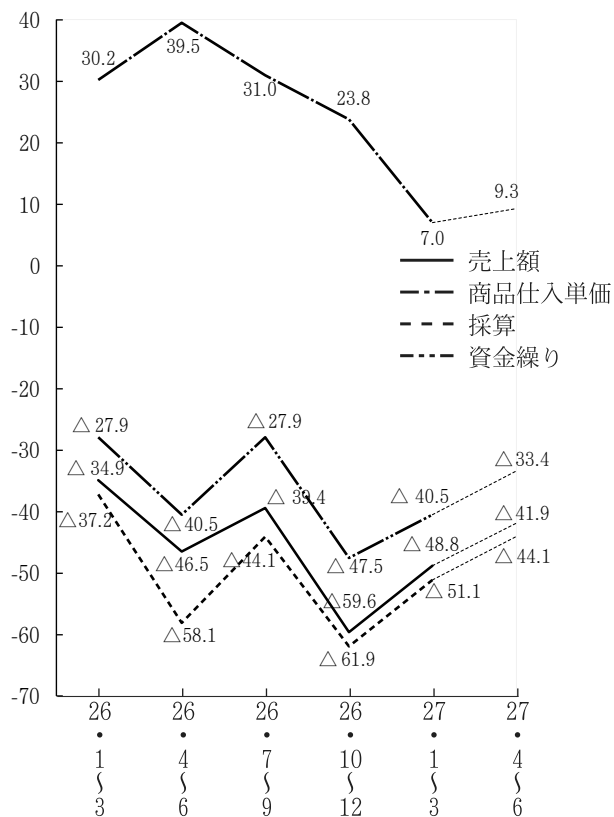
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは今期△48.8（前期△59.6）と10.8ポイント改善し、採算D Iも今期△51.1（前期△61.9）で10.8ポイント改善、資金繰りD Iも今期△40.5（前期△47.5）で7.0ポイント改善と、いずれも前期に比べ改善した。

商品仕入単価D Iは今期7.0（前期23.8）となり△16.8ポイント低下した。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



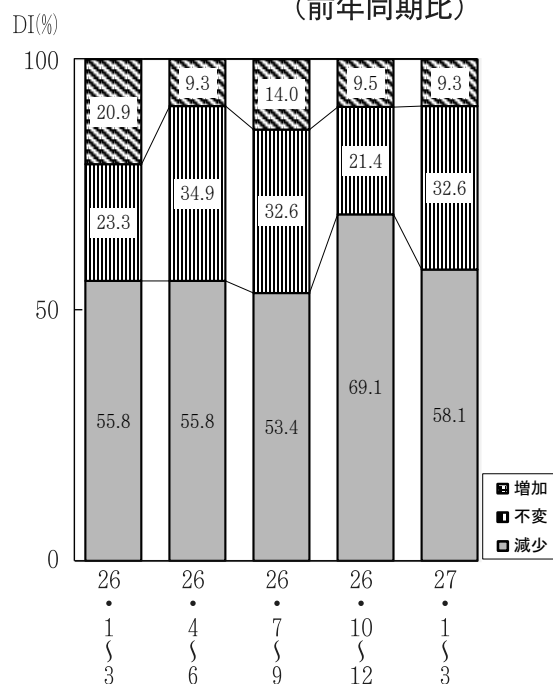
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は今期は全体の9.3%（前期9.5%）と△0.2ポイント減少し、「減少」の回答も今期は全体の58.1%（前期69.1%）と△11.0ポイント減少した。

その結果、売上額D Iは今期△48.8（前期△59.6）と10.8ポイント改善した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

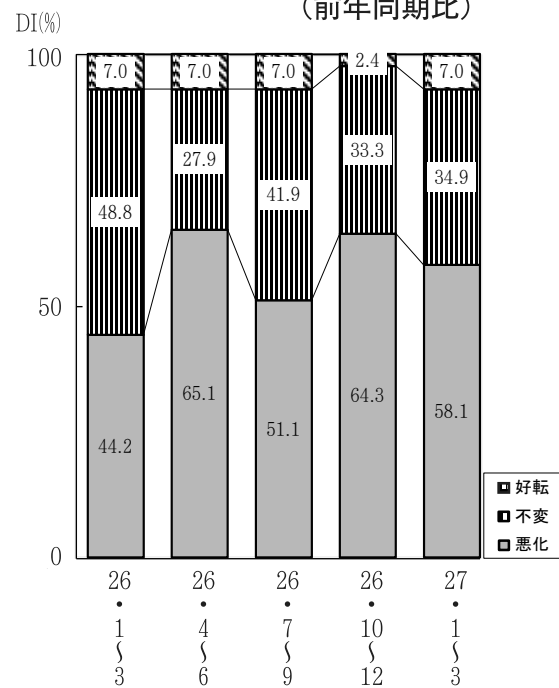


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は今期は全体の7.0%（前期2.4%）と4.6ポイント増加、「悪化」の回答は今期は全体の58.1%（前期64.3%）で△6.2ポイント減少した。

その結果、採算DIは、今期△51.1（前期△61.9）で10.8ポイント改善した。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)



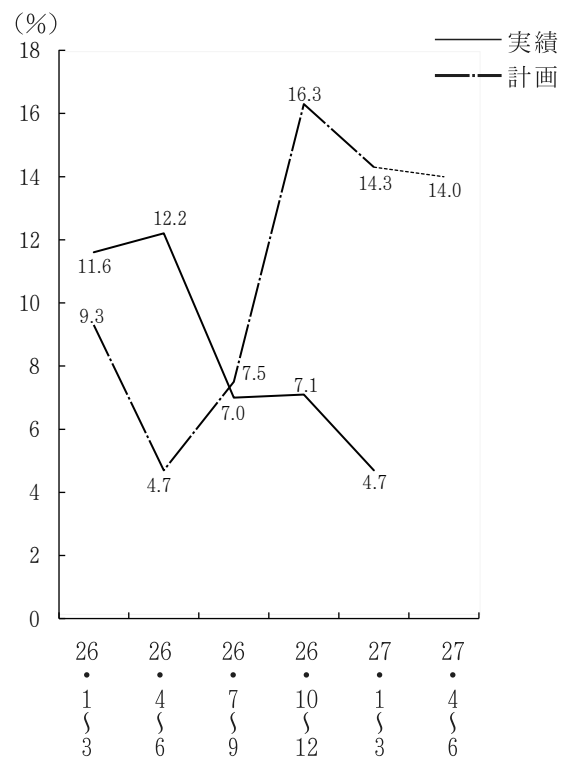
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の4.7%（前期7.1%）で、△2.4ポイント減少した。

その設備内容は車両・運搬具、その他であった。

来期に設備計画している企業は14.0%で、その内容は店舗、販売設備、車両・運搬具、OA機器、その他となっている。

図3-4 設備投資の状況

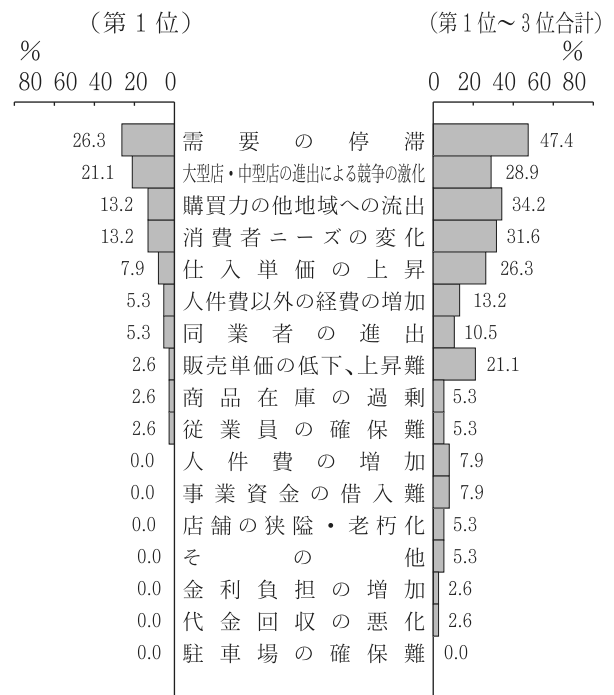


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」で26.3%、次いで「大型店・中型店の進出による競争の激化」が21.1%、「購買力の他地域への流出」、「消費者ニーズの変化」が同率で13.2%と続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」(47.4%(複数回答合計、以下同じ))が最上位で、「購買力の他地域への流出」(34.2%)、「消費者ニーズの変化」(31.6%)、が続いた。

図3-5 経営上の問題点

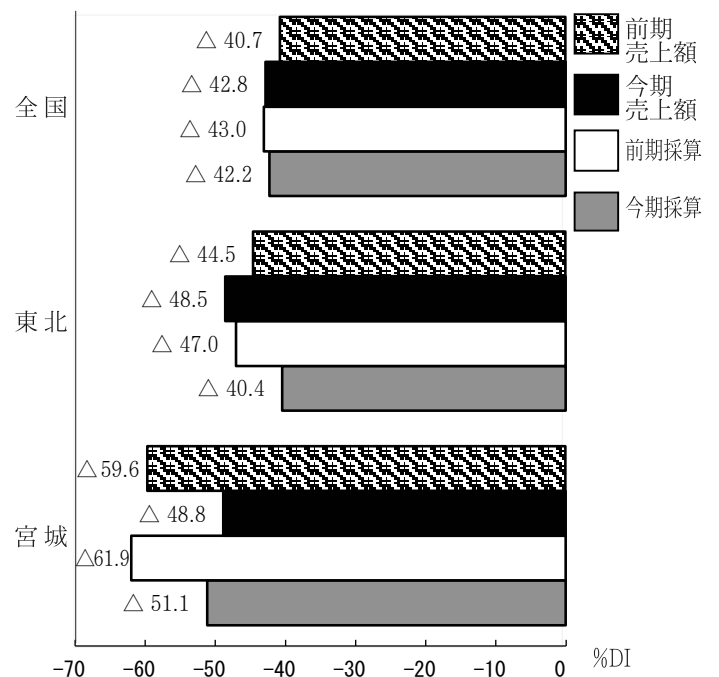


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期の前期との比較では、売上DIは、全国、東北でやや悪化、宮城では改善した。採算DIは、全国で若干の改善、東北、宮城で改善した。改善度は宮城、東北、全国の順であった。

本県回答事業所から「人口減少と高齢化によって売り上げが減少しつつある」(米穀販売)、「商品もニーズの変化に対応できるようにこれからも技術の向上に励まなければならない」と思っている(花・植木販売)などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較(前年同期比)



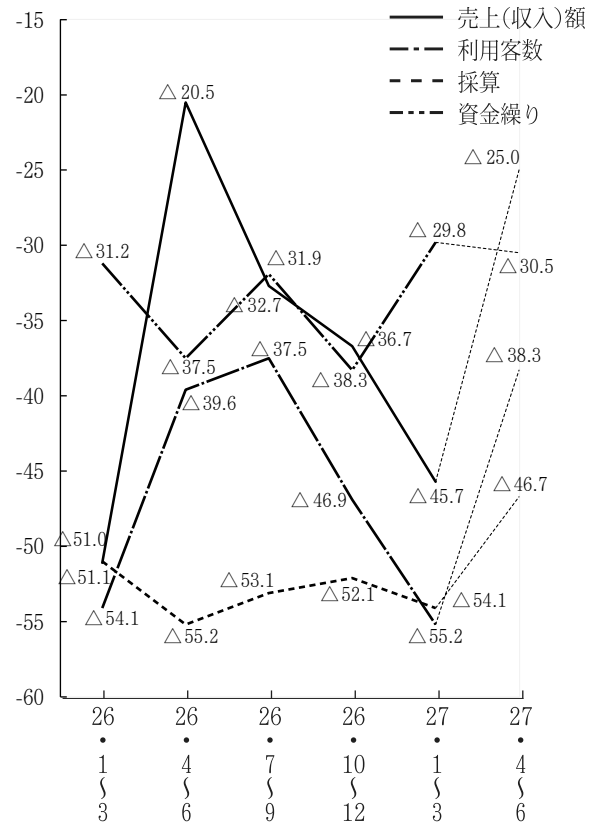
(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額D Iは今期△ 45.7（前期△ 36.7）で△9.0ポイント悪化、採算D Iも今期△54.1（前期△52.1）で△2.0ポイント悪化、資金繰りD Iは今期△29.8（前期△38.3）と8.5ポイント改善した。

利用客数D Iは今期△55.2（前期△46.9）で△8.3ポイント減少した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



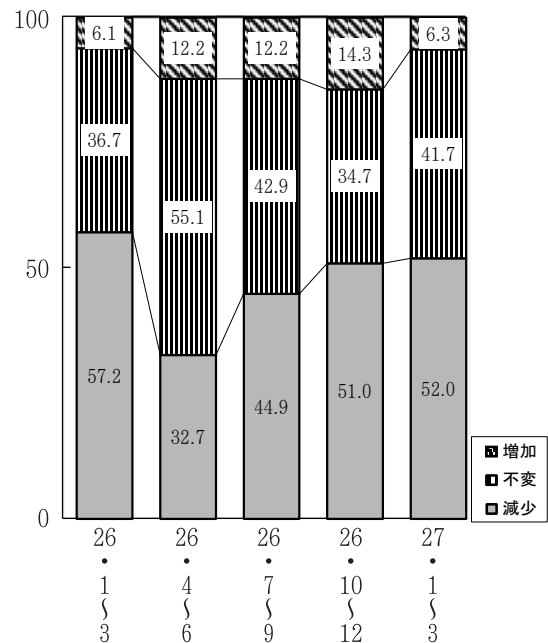
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（収入）額

「増加」と回答した企業は今期は全体の6.3%（前期14.3%）で△8.0ポイント減少、「減少」の回答は今期52.0%（前期51.0%）で1.0ポイント増加した。

その結果、売上（収入）額D Iは今期△45.7（前期△36.7）で△9.0ポイント悪化した。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

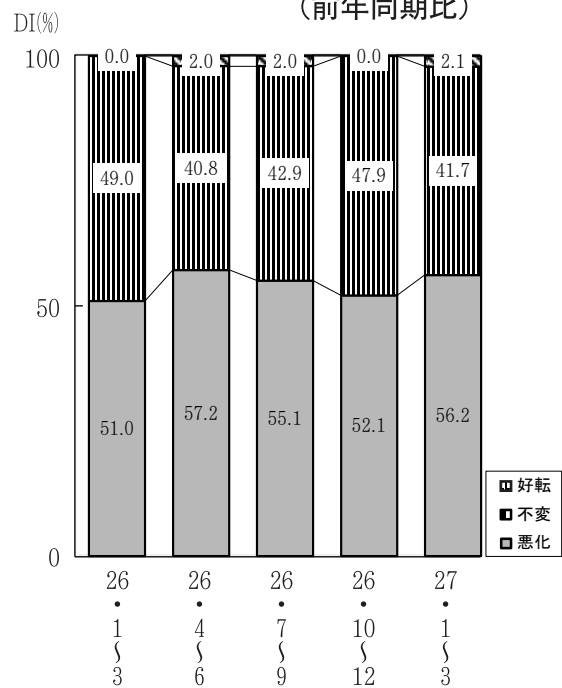


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は今期は全体の2.1%（前期 0.0%）で前期比 2.1 ポイント増加、「悪化」と回答した企業も今期 56.2%（前期 52.1%）と 4.1 ポイント増加した。

その結果、採算DIは今期△54.1（前期△52.1）で△ 2.0 ポイント悪化した。

図 4 - 3 採算の状況
(前年同期比)



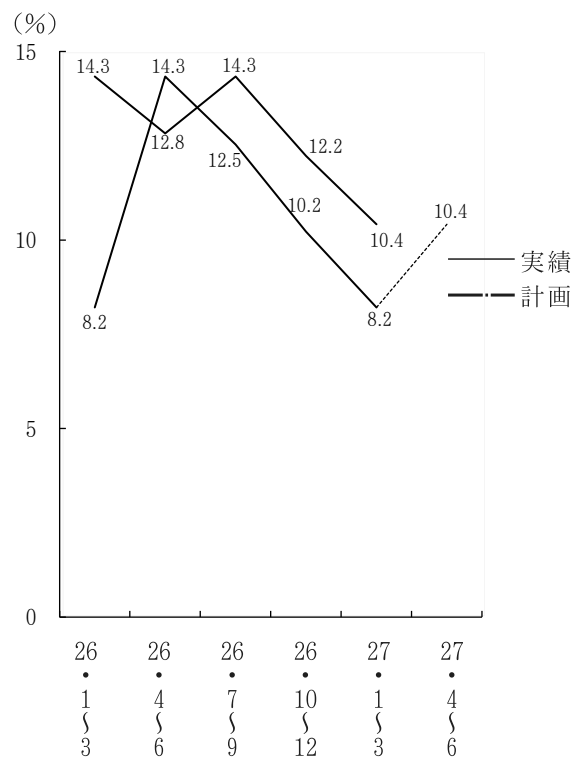
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は、今期は全体の10.4%（前期 12.2%）で△1.8 ポイント減少した。

その設備内容は、土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設であった。

来期に設備計画している企業割合は、10.4%であり、その内容は、建物、サービス、車両・運搬具、その他となっている。

図 4 - 4 設備投資の状況

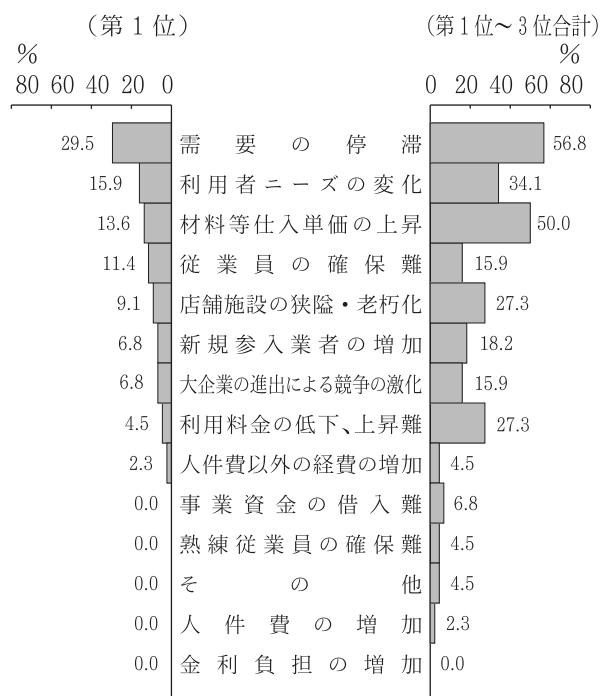


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」(29.5%)で、次いで「利用者ニーズの変化」(15.9%)、更に「材料等仕入単価の上昇」(13.6%)が続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」(56.8% (複数回答合計、以下同じ))が最上位で、次いで、「材料等仕入単価の上昇」(50.0%)、「利用者ニーズの変化」(34.1%)が続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期売上DIは、前期に比べて全国では若干の改善、東北で若干の悪化、宮城では悪化した。

採算DIでは、前期に比べ全国ではほぼ横ばい、東北、宮城で若干の悪化であった。悪化度は宮城、東北の順であった。

本県回答事業所からは「低価格を売りにしているお店が多数進出している。そのためサービス向上等を努力している」(理容業)とのコメントや、「得意客の大半が高齢者であるため来店や出前等の減少が目立つようになってきた。内容の検討が必要となる時期かもしれない」(飲食業)とのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較(前年同期比)

